



# 学校だより

令和5年8月31日

No. 6 9月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

## 子どもたちがいてこそその学校

校長 金子 博美

学校に子どもたちが戻ってきました。朝会で子どもたちにも話した通り、やはり学校という場所には子どもの声がないと寂しいものです。夏休みも終わり、また子どもたちとの日々が始まります。

校内を回っていると、クラスで夏休みの作品をお互いに見合ったり展示したりしている子どもたちに出会いました。「校長先生、これ見てください」「これは、僕が調べたんだよ」「ここには、自分の写真を貼りました」「ここ、触ってみて!」など、どの階に行っても、次々にそれぞれ自分の作品や調べた成果について話してくれます。実際に目の前に持ってきて見せてくれたり、展示した場所に案内して動かし方を教えてくれたり・・・どの子ども自分の作品や調べたことについて本当に楽しそうに話していました。いつもより、少し時間をかけて取り組んだのでしょう。「自慢の作品」のついて話す子どもの様子を見ながら、学校生活の中だけでは分からないその子の趣味やこだわりを知ったり、夏休みの思い出を共有したような気持ちになったりしています。嬉しい瞬間です。

夏休みの間には、地域のお祭りもありました。様々な心配も軽減し、かつての賑わいに近い形で開催された地域行事では、子どもたちが楽しんでいる様子も見ることもできました。会場で私の姿を見つけると、少し離れたところにいるにもかかわらず、「あ、校長先生!」と大きな明るい声で呼びかけてくれました。そして、少しすると友達も何人か連れて、私のそばまできて、「先生も、来ていたんですね」「あっちにお店もありますよ」など、口々にお祭りのことを教えてくれるのです。「ありがとう。行ってみようかな」と言うと、「先生も、楽しんでくださいね。私たちも、行ってきます!」と笑顔で返してくれました。地域での子どもたちは、学校でいつも見る表情と少し違って見えました。地域は子どもたちにとってのホームグラウンドーそう感じさせる笑顔は、とても新鮮でした。いい表情です。

子どもたちが登校しない学校で仕事をする日もありました。学校に着いて、キッズに参加するために正門を通る子どもたちに出会うと、子どもたちの方から「校長先生!おはようございます」と暑さにも負けず元気な挨拶。「夏休みなのに、会えてラッキー!」と私が答えると、「うん、僕もラッキー!」と返ってきます。そんな日は、一日中最高の気分です。

普段の学校生活とは違った場所や時間に出会っても、子どもたちは、本当によく「校長先生」と声をかけてくれます。その瞬間に私も「校長先生の顔」になり、子どもたちがいるおかげで、「校長先生」としての自分があることをあらためて感じます。その子どもたち一人ひとりにとって幸せな学校であるために尽くす日々が再開します。運動会もあります。「なかよし遠足」も計画しています。子どもたちと共に過ごす喜びを味わいながら、「あ～、楽しかった」と子どもたちが実感できるような毎日をめざしていきます。

10/28(土)【予備日 10/29(日)】に行う「西リンピック 2023～思い出祭(案)～(運動会)」は、午前中に全校そろって実施する予定です。保護者の方の参観制限もありません。子どもたちが安全に楽しめるように、また、子どもたち同士が協力し合い、全力を出し切る姿をめざして取り組んでまいります。ご理解ご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。(詳細につきましては、後日お知らせいたします。)